

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

高畠町長 高梨 忠博

市町村名 (市町村コード)	高畠町 063819
地域名 (地域内農業集落名)	佐沢 (佐沢上、佐沢下、南佐沢)
協議の結果を取りまとめた年月日	令和6年2月15日(第1回) 令和6年7月17日(第2回)

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

・基盤整備されていない地域もあるため効率的な集積ができない状況である。また耕作放棄地が発生しやすいことに加え、農作業用道路の狭隘解消、鳥獣被害対策が課題である。
・担い手はいるが十分ではないため、新たな農地の受け手の確保が必要である。

(2) 地域における農業の将来の在り方

・水稻と蕎麦、野菜で複合化を図り、その時々に合わせて臨機応変に対応できる経営をする。
・農地を有効活用するために、区画整理された土地は水稻、未整理地は転作田として区別する必要がある。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	129 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	129 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	- ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方(範囲は、別添地図のとおり)

農業振興地域内農用地区域とその周辺の農地。

注: 区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1)農用地の集積、集約化の方針
農地バンクへの貸付けを進め、担い手への農地の集積・集約化を基本としつつ、担い手の農作業に支障がない範囲で農地利用を進める。
(2)農地中間管理機構の活用方針
地域の農地の貸し借りは農地中間管理機構の活用を促進し担い手の経営意向に沿った農地の集積・集約化を段階的に図っていく。
(3)基盤整備事業への取組方針
農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため農道、用排水、暗渠排水等の整備、農地の大区画化等、基盤整備を検討する。
(4)多様な経営体の確保・育成の取組方針
入作を希望する認定農業者や認定新規就農者の受入れを促進していく。
(5)農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針
地域内外で作業受託を行う事業体へ農作業の一部を委託することで農作業の効率化を図り、農業経営を維持できる体制を作る。

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☐ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☐ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨耕畜連携	☒ ⑩その他

【選択した上記の取組方針】

- ①地域として耕作放棄地の解消と併せて鳥獣害対策(電気柵の設置や放置果樹園等の対策)に取り組んでいく。
- ②有機農業に取り組んでいき、今後も付加価値を高めていく。
- ⑦現状を守り耕作放棄地を出さないために連携を強化し、地域保全会により環境保全活動に引き続き取り組んでいく。
- ⑩農業の加工品を推進する女性を中心に、伝統的食文化の継承に取り組んでいく。